

令和 4年 11月 4日

千代田区長 様

学校名（幹事大学） 学校法人東京家政学院  
所在地 東京都千代田区三番町 22 番地  
代表者名 理事長 吉武 博通

## 「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 「共同事業」実施提案書

「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度要綱に基づき、以下の事業について千代田区から同補助金の交付を受けたいので、同要綱第6条第2項の規定に基づき提案します。

事業名	自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (3) 地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発
-----	--

幹事大学	東京家政学院大学	
研究代表者	氏名	酒井 治子
	所属・学位	東京家政学院大学 人間栄養学部 人間栄養学科 教授 博士（栄養学）
	専門研究活動分野	帰宅困難者支援における栄養・食支援に関する研究 地域栄養教育学、食生態学
	連絡先	電話番号：03-3262-2692 E-mail：E-mail：hsakai@kasei-gakuin.ac.jp

	学校名	研究者（所属・氏名）	役割分担
共同大学	大妻女子大学	堀 洋元 人間関係学部人間関係学科 准教授	学生および職員を対象とした防災・減災意識に関する研究
	大妻女子大学 短期大学部	下坂 智恵 家政科 教授	帰宅困難者支援における食に関する研究
	共立女子大学	近藤 壮 文芸学部 文芸学科 准教授	千代田区における過去の災害に関する研究
	二松学舎大学	谷島 貫太 文学部 都市文化デザイン学科 准教授	千代田区における過去の災害に関するワークショップの設計
	法政大学	伊藤 マモル 法学部 政治学科 教授	帰宅困難者支援施設の健康管理に関する研究

### 【添付書類】

第1号様式の4 「共同事業」実施計画書

第1号様式の5 「共同事業」経費見積書

## 本共同提案事業の実績

※本共同提案事業の実績を分かりやすく具体的に記入してください。

(過去の事業成果、区との関わり等) ※初年度目の場合は記入不要です。

令和3年度の「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究(1)学生版KUG(帰宅困難者支援施設運営ゲーム)の開発」を進め、下記の点について成果が得られた。

①千代田区における過去の自然災害の集積。②学生が災害時の食事についてどのように考えているかを把握するためのアンケートを行い、日ごろから適切な備蓄を行い、災害時に作れる料理について実践しておきたいという積極的な意見が見られた。③大学がどのような防災情報を学生に提供しているか、千代田区・文京区の31の大学からの情報発信内容を調査した。④一時帰宅困難者受け入れ施設における避難生活が長期化した場合、災害が引き金となり体調を崩す可能性が高まる。そのため、避難施設における有効的な健康マネジメントを開発する研究を進めている。

今後これらの研究成果をもとに、帰宅困難者支援施設の運営体制について、千代田区に研究提案をしたいと考えている。

## 「千代田学」におけるこれまでの事業提案名及び成果・実績

※「千代田学」事業(単独提案・共同提案)での実績があれば記入してください。(実績が無い場合は記入不要です。)

令和4年度に採択された「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究

(2)教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」から、下記の成果がえられた。

- 千代田区における過去の自然災害の歴史記録の集積と、帰宅困難者施設における防災に必要な情報・用品等のデータが収集された。
- 学生を対象とした防災意識の実態が把握でき、防災教育の内容に向けた基礎資料が収集できた。
- 疑似的な一時帰宅困難者受け入れ施設における宿泊を体験した学生を対象とした調査において、精神的ストレスが高まる傾向が確認された。

各大学において学生・教職員を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲーム(以下、KUG)の実施とその効果に関する情報の共有ができた。

## 研究者の実績

※研究者の実績を分かりやすく具体的に記入してください。

(千代田区及び他自治体での活動実績等)

## 【酒井教授(東京家政学院大学)】

平成31年度「千代田学」、令和2～4年度「千代田学」の事業において、千代田区における和食文化・芸術体験プログラムに関する研究、共創的な食育推進に関する研究をすすめてきた。平成31年から千代田区文化芸術プラン(第四次)策定にかかる検討会議 副委員長を務めている。

## 【堀准教授(大妻女子大学)】

広域災害における避難所運営訓練システムSTEP(Simulation Training of Earthquake Shelter Program)を開発し、実践活動等通して地域住民の防災意識向上に貢献している。

千代田区キャンパスコンソ共同公開講座、多摩市関戸地球大学院等で防災に関する講演を実施。大妻防災講座「大妻防災BBQ」では、地域住民と学生が多数参加した。大妻女子大学地域連携プロジェクト「みんなで防災大作戦～防災を日常に」では学生による防災のアイデアを活かして地域住民と連携し実践している。

## 【下坂教授(大妻女子大学短期大学部)】

食品の調理による物性と成分の変化、調理技術の伝承、食情報・食意識に関する研究に携わる。日本フードスペシャリスト協会資格認定試験委員(2014～現在)。「21世紀を健康に生きるために」「スピードクッキングーかんたん手料理のコツー」「からだが喜ぶ食事で“ハッピーなコウレイシャ”になろう」等の公開講座や地域連携推進センター企画の講演を行った。

## 【近藤准教授(共立女子大学)】

平成11年4月から令和2年3月まで歴史系博物館にて数多くの展覧会を企画・開催、および教育普及活動に携わる。平成26年4月から令和2年3月まで和歌山地方史研究会副代表。博学連携事業(博物館と学

校教育との連携事業)：博物館と小学校教育との連携—小学3・4年生の社会科の単元に合わせた教育プログラム(お米作りの映画上映、昔の道具の実践、資料解説、ワークシート等)の開発・作成・実施。ミュージアムボランティアの実施(博物館活動における大学生ボランティアの受け入れ)。「博物館施設等災害対策連絡会議」における文化財レスキュー、災害の記憶を未来へつなぐ活動を行った。

**【谷島准教授(二松学舎大学)】**

平成30年度から令和2年度にかけて、千代田学採択事業として「千代田区の郷土資料を用いた Wikipedia 記事作成ワークショップの展開」を実施。これまで Wikipedia の記事が存在していなかった千代田区の文化財を対象として、一般参加のワークショップを計画、実施してきた。

**【伊藤教授(法政大学)】**

フェンシング日本代表選手らの競技パフォーマンスを高めるためのコンディショニングに関する研究と教育に長年携わってきた。法政大学ではボランティアセンター長(平成30年度～令和2年度)として、学生の「東北被災地ボランティアツアー」を毎年度実施し、被災地に対する理解を深め、防災意識の風化防止に貢献した。令和元年度から本学キャンパスにおいて「防災キャンプ(疑似避難施設宿泊訓練)」を実施し、「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」と連携し、大学生の防災減災意識を高めるための啓蒙活動を継続している。

## 「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度「共同事業」実施計画書

<b>事業名</b>	自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (3) 地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発
<b>テーマ</b> ※要綱別表1から選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策・危機管理に関すること等の調査・研究</li> <li>・区の歴史・文化財に関すること</li> </ul>

### 事業目的

首都直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害が発生した場合、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム(以下、千代田区キャンパスコンソ)の5大学・2短期大学を含む区内の大学は、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結しており、各大学が対応可能な範囲で「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」、及び「情報・食糧・飲料水などの提供」などの使命を少なからず担うことになる。

東京都総務局統計部によれば千代田区の昼間人口は819,247人(令和2年度国勢調査)であり、各大学で収容する学生以外の不特定多数の区民や帰宅困難者を受け入れた場合、キャンパスのキャパシティを大幅に超える可能性が想定される。さらに、各大学では施設開設に伴う安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有や連携の在り方について十分に検討されているとはいえない。

こうした背景の中で、令和3年度には、各大学の帰宅困難者支援施設運営の計画や災害対応体制の再構築に関する課題を明確化し、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害記録、また、防災に必要な情報・用品等のアーカイブ化、また、先駆的モデル校である法政大学版の帰宅困難者支援施設運営ゲーム(以下、KUG)の改定をすすめ、各大学で帰宅困難者支援をすすめるための基礎資料の収集を進めてきた。さらに、令和4年度には、法政大学は学生及び職員を対象に、また、他4大学では学生を対象に各大学の事情に応じたKUGの開発と実施を試み、防災・減災意識の変化に及ぼすKUGの教育的効果を検証してきた。

そこで、令和5年度には、今までの研究成果を踏まえ、千代田区内の公共施設および企業と連携し、各大学のKUGの効果および帰宅困難者受入れ施設としての運営能力を検証するとともに、より精度を高めた施設運営ガイドラインを作成し、各大学で共有する。同時に、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録、また、防災に必要な情報・用具等の動画コンテンツ等を再編集し、その効果を検証していく。各段階で、研究により得られた知見や解決した問題点などの資料を、千代田区の危機管理政策経営担当部門に提供したい。

本企画は、千代田区キャンパスコンソを構成する大学・短期大学による共同提案である。各大学が区と取組む災害対策において、栄養・食、歴史・文化、健康管理・情報等、それぞれ有する専門分野の切り口から連携・協力し、調査・研究を行うものである。複数の大学で取組むことにより、1つの大学による提案では難しい多角的な視点から調査・研究が可能となる。また、活動には各大学の学生が連携して取組む。他大学の学生との意見交換を通して、参加学生は多様なものの見方・考え方を理解し、新しい気づきにより柔軟な発想による提案等が期待できる。

注釈：KUGとは、帰宅困難者支援施設で生じる可能性がある様々な出来事や避難者への対応など、現場で起こり得る問題(研究者の専門性を活かした問題の提示など)をゲーム感覚で模擬体験できるゲームのこと

### 区との関連性・区政や地域への貢献

本事業は学生や区民の目線から帰宅困難者支援の在り方を見直すことを重視するため、その過程において行う「帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)」や歴史的な災害を振り返ることで、防災・減災意識を啓発する。その結果から防災減災教育の効率的なアプローチの手段を明らかにするとともに、製作したKUGを千代田区における防災減災教育教材として普及させ、発災時の帰宅困難者支援施設としての効率的な運営、および円滑な管理体制の充実と強化に資する。一方、より現実的な視点から各大学の現状と課題(事前の備えや災害応急対応などに資する改善点)が明確化されることが期待され、千代田区の政策に資する基礎的資料やそれに基づく提言が可能である。

また、帰宅困難者支援施設としての大学の施設規模や機能について区民に周知する方法を、千代田区ならびに区民や学生と協力して構築することによって、さらにその繋がりを深めることが期待される。本事業で作成したKUG

は、区内の大学のみならず、企業、区の職員対象にも展開可能であり、千代田区における防災・減災意識を高めるための教材として活用できる。また、調査・研究の成果は動画コンテンツ化し、広く区民等が視聴できるようにする。

## 事業計画・研究手法・大学別の役割

本事業の目的を達成するため、令和5年度は、1) 災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録や記憶、また、防災に必要な情報・用具等の教材化とその効果検証、2) 各大学では地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発と効果検証をすすめ、帰宅困難者支援施設運営ガイドラインにつながる。

### 1) 千代田区における過去の災害の記録や記憶、また、防災に必要な情報・用具等の教材化とその効果検証

- ① 千代田区における災害時の帰宅困難者支援に関する歴史的資料の教材化：令和5年4～8月  
千代田区における過去の自然災害と帰宅困難に関する記憶や教訓の集積・分析(共立女子大学)。
- ② 帰宅困難者支援施設における必要な情報・備蓄品のデータベースと教材化：令和5年4～8月  
帰宅困難者支援施設における健康管理教育(法政大学)、栄養教育(災害弱者(高齢者・乳幼児など)ニーズへの対応を含む(東京家政学院大学)、想定されるトラブルの収集(大妻女子大学)。災害時に役立つ簡単クッキング方法の検討(大妻女子大学短期大学部)。防災のリスクを認識し防災意識を高めるワークショップの実施(二松学舎大学)。
  - ① ②をもとにした、動画学習教材の開発化とその効果検証：令和5年8～9月  
一般社団法人防災教育普及協会から、防災・減災に関する極めて豊富な知識と経験を有するアドバイザー講師を招聘し、研究者の専門分野から防災・減災に関する動画を教材化する。さらに、各大学で、学生を対象に、その効果検証を試みる。

### 2) 地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発と実践(全大学)

- ① 帰宅困難者支援施設の運営体験(各大学の学生・職員の参加で実施)：令和5年8～11月  
各大学の学生が帰宅困難者及びその支援者の両面から、備蓄食料の調理・試食、安全衛生管理を体験し、各大学版KUGの開発につなげる。
- ② 一般社団法人防災教育普及協会から、防災・減災に関するアドバイザー講師を招聘し、防災・減災に向けて大学で連携すべき社会資源(近隣企業・社会福祉協議会やNPO・ボランティア団体など)の発掘と連絡調整：令和5年4～8月
- ③ 地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発と実施：令和5年10～12月  
学生及び職員、千代田区在勤・在住者(各50名)を対象に、学生が主体的に参加してプログラムを組み立てて実施。各対象の防災・減災意識の変化を分析(前後比較デザインの介入研究)。

### 3) 帰宅困難者支援施設運営ガイドラインを提言(全大学)

研究1)2)を受けて、学生が主体的に参画する施設運営ガイドラインを提言：令和6年2～3月(全大学)

### 4) 令和5年度の報告書作成：令和6年2～3月(全大学)

スケジュール欄(上記のとおり)

## 研究成果の発表

千代田区キャンパスコンソ大学版帰宅困難者支援施設運営ゲームKUGの作成プロセスや、学生及び職員への教育効果を、学会(防災教育学会や避難所・避難生活学会等)や各大学紀要等で発表、千代田区における過去の災害に関する資料の展示(千代田キャンパスコンソの各大学の各図書館・各博物館・資料館、および千代田区立図書館など)、リーフレット、インターネットなどの媒体、動画コンテンツを提供する。千代田区他大学、区民等に向けたセミナーを開催し、今後の研究につなげる。

また、「令和5年3月に開催する『ちよだコミュニティラボ ライブ!』にて研究成果を発表予定」等、区民と研究成果を共有する場を設ける。

## 学生の活用

1. 各大学の学生（ゼミ・研究室、ボランティア関連のサークル等）からの有志学生を募り、KUGの作成および調査を計画する。KUGを教材仕様にする過程や調査票の分析、教材仕様のKUGのグループワークでのファシリテーターは可能な限り学生主体で行う。
2. 千代田区の過去の災害に関する調査、災害時に必要な栄養管理方法や過去の被災地での食支援の活動事例等の調査、データベース化等は学生の研究活動の機会としても位置付けて実施する。